

留学報告書 II (2020 年度留学生)

塾内在籍校・学年(派遣時)	湘南藤沢高等部 2 年
留学先校名	The Taft School
留学期間	2020 年 9 月から 2021 年 7 月まで

留学前

派遣留学先では、どのようなことを期待していましたか？

ただ優秀なだけでなく、世界中から集まった多様なバックグラウンドを持つ生徒がいることを期待していました。また、文武両道の学校生活を送るためにも、授業も生活面でも手厚く支援してくださる先生方との出会いを楽しみにしていました。ハークネスディスカッションや、アクティブラーニングを重視した最新の授業スタイルも体験してみたかったです。そして、友達と新しい思い出を作れる楽しい学校生活に最も期待を抱いていました。

留学に向けて、事前にどのような目標を立てましたか？

ネイティブの生徒に圧倒されないよう、足りない面は自分で努力し、授業に積極的に参加することを目標としていました。また、勉強面と生活面において、受け身の姿勢になるのではなく、自分も Taft community の一員として率先して行動を取ろうと思っていました。特に、私は元々少しシャイで消極的な性格なので、後悔のないように様々なことに挑戦することを目標に掲げていました。

留学を振り返って

コロナの影響で厳格なルールが設けられていたため、期待通りとは程遠かったです。まず、期待していたハークネス、全てのソーシャルイベント、秋季と冬季のスポーツ試合、全校集会など、例年あるものがなくなりました。また、マスクやソーシャルディスタンスで友人との距離を縮めるのが難しかったです。学校に通えていることだけでも非常に恵まれているとわかりつつも、このような学校生活は生徒や先生に負担・ストレスであり、コミュニティのスピリットも下がっていました。一方で、creative な工夫が導入されていました。例えば、屋外で数々のヤードゲームが配置され、tie-die で服を染めるイベントや、テーマに沿った服を着る spirit week などが設けられました。体験できないことも多くありましたが、期待していた多様な背景を持つ生徒、先生とのコネクションはできました。むしろ共に大変な 1 年を乗り越えたからこそ、さらに関係が深まった気がします。予想外なことは数え切れないほどありましたが、その分掛け替えの無い経験もできたと思っています。

学校内や寮内で、コロナ対策としてどのようなルールがありましたか？

1 年間通しての原則：自分の部屋以外では常時マスクの着用、6ft (約 2 m) ソーシャルディスタンス、ダイニングテーブルの利用は 20 分間 3 人まで、寮でのトイレ兼シャワー室は一度に 3 人まで、陽性者が出た場合はその生徒と濃厚接触者は 48 時間以内に帰宅、寮生はキャンパスから外出禁止、休み明けから入寮する際に 72 時間前以内の PCR 検査の陰性証明が必要、--- もしルール違反した場合は covid grade が付き、3 個たまったら親に連絡、6 個たまったら帰宅させられます。

秋学期：アプリを通して毎朝健康確認、他人の部屋に行くこと厳禁、廊下は一方通行（その代わりに授業間の時間が例年の 5 分から 10 分に延長）、部活中も他人との接触禁止、およそ月 2 回の頻度で全校（教員スタッフ含め）PCR 検査を受ける日が設けられていました。

冬学期：寮生は週に 1 回、通いの生徒は週 2 回唾液サンプルからコロナ検査実施開始、アプリを通じた健康確認の終了、学校再開されてから 2 週間は感染嚴重注意期間、それ以降は部活中の接触が認可、途中から cohorts (同じ寮の生徒 10 人ほどのグループ) が作られ、cohort 内での部屋の行き来は認可されていました。

春学期：door dash と UberEATS の利用禁止、他校との試合が週に 1-2 回行われていました。

ルームメイトはどのような方でしたか？(1 人部屋だった場合は、同じ寮の友人について教えてください。)

Vogelstein という寮の建物で、2 つの 1 人部屋の間に開閉できるドアがあるような部屋でした。ルームメイトがコロナの影響で最初の 1 ヶ月はリモートだったため、最初は 1 人でしたが、彼女が来てからはドアをほとんど開けた状態でした。お互い少し人見知りで彼女が遅れてきたこともあり、打ち解けるまで時間はかかりましたが、話がとても面白く気が合う子でした。彼女は課外活動として Robotics Club に所属しており、理系に強い優秀な生徒でした。英語の授業は異なりましたが、同じ課題図書を読んでいたことがあったため、エッセイの相談をしました。2 学期からは Aquatic Science のクラスが一緒だったため、宿題について話し合い、プロジェクトを一緒に取り組みました。週末はご飯を食べたり、映画を見たり、課外活動は別でしたが、共に過ごす時間は長かったです。

学業について

Honors Precalculus: 1 学期はすでに習っていた範囲が多かったですが、進みが早かったため、2 学期には Calculus の範囲に入りました。日本の数学の授業と違って、Graphing Calculator を使うことが多かったです。宿題は教科書から毎日 20 題ほど出て次の授業の最初に各問題の答えを生徒が白板に書き、クラス全体で答え合わせする形でした。1 つの単位が終わるごとにテストが行われ、学期試験がなかったため、テストのスコアが直接成績に換算されました。

Honors French 1: 教科書は与えられず、ディスカッションとペアワークに重点を置き、その日先生が用意した資料を進めていく形の授業でした。Listening/Reading/Writing に偏りなく、全てを練習できるよう、生徒同士でインタビュー、記事の読解、映画視聴、オンラインゲーム、文法教材など、多様なプラットフォームを使って学びました。大きな課題として単位が終了するごとに提出されるエッセイ作成とプレゼンテーションの作成がありました。日々の課題では Rosetta Stone を使うことや、プリントが配られることがありました。

AP Human Geography: レクチャー形式の授業で他の授業に比べると暗記と詰め込みが多かったですが、歴史と地理と経済学を組み合わせた科目で、非常に興味深かったです。クラスの雰囲気は毎日元気に溢れており、先生の投げかける質問に答えたり、恥ずかしがらず疑問を声に出したりするようになりました。毎日の課題は教科書を読んでくることが多かったです。頻繁にエッセイを書く授業でもありました。授業時間内でエッセイを一つ完成させる練習もあり、細かいフィードバックをもらうにつれ、アカデミックライティングに自信がつくようになりました。

Public Speaking: 2 学期に受けた授業で唯一の完全リモート授業でした。本来であれば、小さいホールを使ってクラスの前で発表を行うはずが、全て Zoom になってしまいました。様々な種類や長さのスピーチを用意することや、他人のスピーチを評価することには変わりありませんでした。突然与えられたお題に対して喋るスピーチ (impromptu) や好きな映画について 15 分間語るスピーチ、自分がイラっとする瞬間を説明するスピーチ (pet peeve) 、などがありました。リモートだったため、会ったこともないクラスメイトのことも、数々のスピーチを通して深く知ることができる楽しい授業でした。

Advanced Ecology: 1 学期のみの授業で、4 人対面、2 人リモートという、6 人で構成される少人数クラスでした。生物学の基本をまず習い、後にコウモリ、花粉媒介者、ザリガニについて詳しく研究するプロジェクトに取り組みました。特別に校外へデータ収集が許可され、近くの川や環境保全施設へ行き hands-on science を体験することができました。途中からグループに分かれ、私はパートナーとコウモリ研究のデータ分析を担当し、一般公開されたリサーチ発表会でプレゼンテーションをしました。この授業での課題は主に読書と発表の準備で、テストはありませんでした。日本ではここまで人数の少ない授業は体験できないので、貴重な時間でした。

Aquatic Science: 同じ先生による 2 学期のみの授業でした。生徒は 10 人に増え、課題もテストも増えました。レクチャー形式の授業もありましたが、校舎内にある 3 つの水槽の世話や、サメや魚の解剖、近くの湖での水質・水深調査など、印象深い経験も数多くさせてもらいました。Practical という実技試験の

ようなものを行いました。ヒトデや魚、貝類などの実物が置かれていて、名称や種類、性別を区別する能力と知識を試され、今までにない試験形式でした。課題は主に与えられた記事の読書と塗り絵でした。

Upper Mid English: 毎晩 20-30 ページほどの課題が出て、次の授業でその範囲について話し合うディスカッション形式の授業でした。一年間で 8 冊読みきり、読書スピードだけでなく、分析読解力が深まりました。同じものを読んでいても生徒一人一人違う解釈をもち、意見が分かれることもよくあり、自然とディベートがくり広げられることもありました。本を読み終わるとエッセイの課題が出るが多かったですが、本の終わり方を作者になった気分書き直す課題や、テーマを一つ選択し、プレゼンテーションを作る課題なども出ました。

今年度は一切試験(finals)がありませんでした。

今後の派遣留学生へのアドバイス

一つ選択できる **Extracurricular activity** とは別で、クラブなどの課外活動は年の初めの入部期間を逃すと、途中から入りにくいので、早めに情報収集をしておくことをお勧めします。

Junior からはいる生徒は少なく、最初は学校の雰囲気を知るのが難しいかと思います。それでも、少し勇気を出して話せば必ず助けてくれる先生や、授業の情報から世間話まで全部 **fill in** してくれる友達もたくさんいます。周りが優秀だからと縮こまる必要も一切ありません。一瞬に感じる限られた時間なので、自信を持って、とにかく楽しんでください。私は、失敗もいつかは笑える話になると思って頑張りました。**Taft** では“**educate the whole student**”というモットーがあり、教室だけではなく、寮やスポーツ、ダイニングホールなどでも人から学べる機会に溢れています。是非、それを最大限に活用して経験を増やし、充実した一年になることを願っています。

以上

